

Innovation and energy driving forward a strong chemical company

株主通信

第95期 中間事業報告書

平成29年4月1日から平成29年9月30日まで

強いケミカル・カンパニーに向けた変革と実行



[証券コード 4028]

ISK 石原産業株式会社



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社の第95期上半期の株主通信をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成29年12月

代表取締役社長 田中 健一

Q.1 第95期上半期の経営環境についてお聞かせ下さい。

世界経済は緩やかに回復、
日本経済においても回復基調
酸化チタンは海外市況が改善、
農薬の海外需要は引き続き低調に推移

当上半期（平成29年4月1日から平成29年9月30日）における世界経済は、米国では堅調な個人消費の伸びにより緩やかな景気拡大が続く、欧州でも概ね景気は底堅く推移しました。アジアでは、中国で各種政策効果により景気の持ち直しの動きが見られるなど、全体として緩やかな回復傾向にありました。日本経済は、雇用環境や企業収益の改善の動きが途切れず、緩やかな回復基調が継続しました。このような状況の下、主力事業を取り巻く事業環境のうち、酸化チタンでは、世界的に需給バランスがタイト化し、海外市況が改善しましたが、チタン鉱石価格が騰勢を強めるなど各種原料価格の上昇が懸念され、予断を許さない状況が続きました。農薬では、長引く農産物価格の低迷により農家の購買意欲

が盛り上がり、またブラジルなど南米で積み上がった流通在庫が需要を抑制し、世界の農薬出荷額は引き続き低調に推移しました。

Q.2 セグメント別の状況と当上半期の業績についてお伺いします。

酸化チタンは国内外ともに販売増、
農薬は欧州向け販売減

無機化学事業の主力である酸化チタンは、海外でのタイトな需給環境が国内へも波及し、国内外ともに販売数量は前年同期を上回りました。機能材料は、電子部品向けや導電性材料など各種製品の販売が総じて好調に推移しました。損益面では、輸出価格の改定や、各種コスト削減の成果も加わり増益となりました。

次に、有機化学事業の主力である農薬は、国内外で進めている新規剤の市場投入、拡販に向けた販売基盤の構築に努め、国内販売はほぼ前年同期並みの売上となりましたが、海外販売は欧州で昨年好調であった殺虫剤や流通在庫の

影響を受けた除草剤の販売数量が減少し、売上は前年同期を下回りました。一方、医薬は、受託製造の医薬原末の売上が増加しました。損益面では、売上高の減少に加え、研究開発費などの費用増により減益となりました。

この結果、当上半期の売上高は前年同期比16億円増の529億円、営業利益は前年同期比20億円増の38億円、経常利益は前年同期の為替差損が為替差益に転じるなどにより前年同期比33億円増の33億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は24億円（前年同期は7億円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

Q.3 第95期通期の見通しはいかがですか？

上半期実績ならびに下半期の各事業の市場動向、
為替見通しを踏まえ増収増益の見通し

通期の業績見通しにつきましては、下半期以降の為替レートを米ドル110円、ユーロ125円と想定して、売上高は1,070億円、営業利益は92億円、経常利益は86億円、親会社に帰属する当期純利益は65億円と、前期に比べ増収増益を見込んでおります。

Q.4 現在注力している取り組みについてお聞かせ下さい。

無機化学事業は高機能・高付加価値製品の
拡販を加速、有機化学事業は新規農薬の販売と
海外販売拠点の拡充に注力

無機化学事業では、高機能・高付加価値な製品の拡販に向けて、開発・生産・販売の各部門が連携を強化しながら開発・営業活動のスピードアップを図っています。酸化チタン

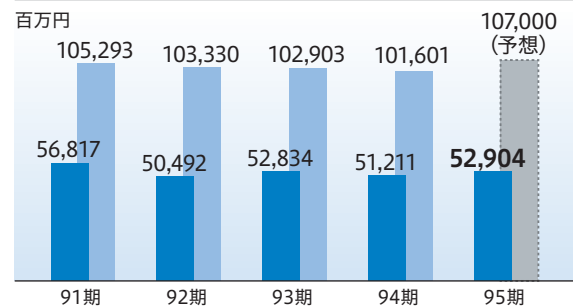
財務ハイライト

では、超耐候性銘柄PFC105が順調に採用実績を積み上げてきており、その他にもインキ用銘柄のラインアップの拡充や新たに内装用塗料向けにつや消し顔料の開発を進めています。機能材料では、自動車の電装化や様々な分野でIoTによる電子化が進展する中、電子部品向けの高純度酸化チタンや帯電防止機能を有する導電性材料のニーズが高まってきており、これら2つの製品を核として拡販に取り組んでいます。この内、導電性材料は、電子部品工場の床塗料や自動車の静電塗装用の下地塗料の他、プラスチック系製品の塗料やインキなど幅広い分野で需要が伸びてきています。

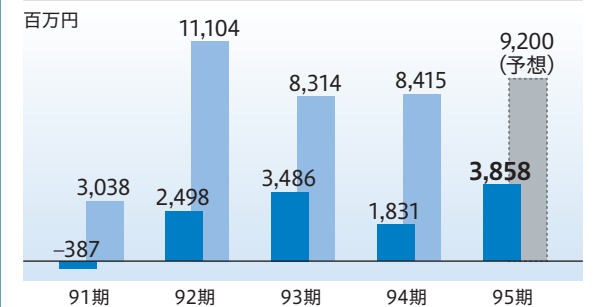
有機化学事業では、国内外で新規農薬の販売に注力して取り組んでいます。これまで開発してきた一連の新規の殺菌剤、殺虫剤、除草剤が日本、欧州、北米の主力市場で登録を取得し、今年度より販売を開始します。来年度から始まる次期中期経営計画での成長の原動力として期待しています。また、ここ数年、アジア、中南米を重点地域として販売拠点の拡充に取り組んでいます。今年度にはアジアで新たに現地法人を設立する計画で、既に設立しているインドとともに、新しい拠点を通じて農薬の登録取得を加速し、伸び行く市場での需要を確実に取り込めるよう取り組みます。

将来の成長基盤として取り組む新規事業のうち、HVJ-E抗がん剤については、共同で開発する大阪大学医学部とともに早ければ今年度末にも悪性黒色腫、悪性中皮腫の2がん種を対象に医師主導で第2相治験に入る予定で、その準備を進めています。第2相治験に入れば、それと並行し製薬企業へのライセンス活動を本格化させ、研究開発のスピードアップと効率化を図ってまいります。動物薬については、国内において、現在承認申請中で、当局にて審査を受けております。また、国内に続いて、海外での開発にも着手しました。将来は、当社の中核的事業のひとつとなることを目指して、開発に取り組んでいます。

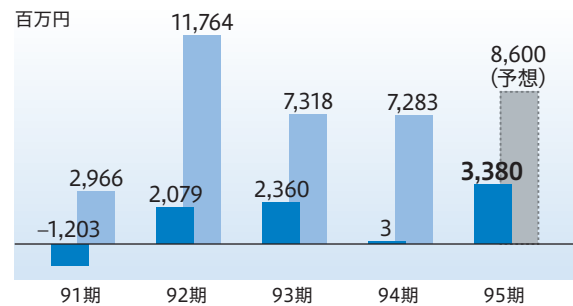
連結売上高



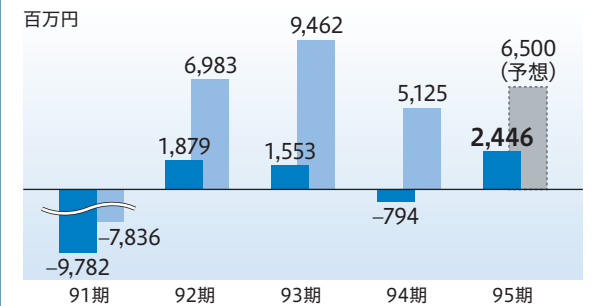
連結営業利益



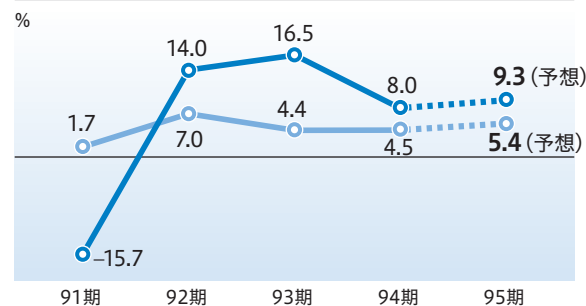
連結経常利益



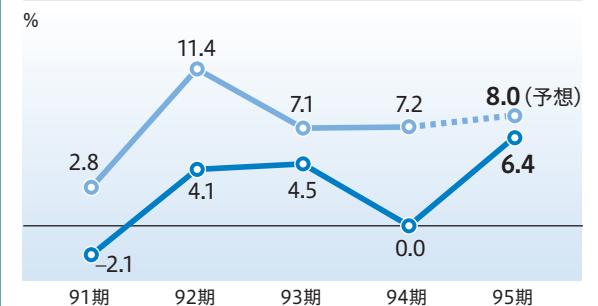
親会社に帰属する連結当期純利益



連結ROE・ROA



連結売上高経常利益率



(通期の業績予想の前提としている95期第3四半期以降の主要通貨の為替レートは、110円/米ドル、125円/ユーロと想定しています。)

※百万円未満を切り捨てて表示しています。

無機化学事業

国内トップシェアの酸化チタンは高付加価値品を海外で展開

酸化チタン



- 売上高は213億円
(前年同期比36億円増)
- 海外でのタイトな需給環境により、国内外ともに販売数量が前年実績を上回る
- 輸出価格の是正や、コスト削減などにより増益

機能材料



- 売上高は56億円
(前年同期比4億円増)
- 電子部品向けや導電性材料などの製品が販売好調

営業品目

酸化チタン

タイペーク、タイペークイエロー

機能材料

超微粒子酸化チタン、超微粒子酸化亜鉛、導電性材料、光触媒酸化チタン、高純度酸化チタン、高純度四塩化チタン、触媒用酸化チタン、針状酸化チタン、ガラスコーティング

環境商品

ジブサンダー、フィックスオール、MT-V3

電池材料

エマナイト

有機化学事業

世界トップクラスの技術開発力で世界の農産物の安定供給を支える

農薬



- 売上高は241億円
(前年同期比24億円減)
- 国内向けは前年同期並み
- アジア、北米向けは堅調に推移
- 欧州向けは殺虫剤や除草剤の販売数量が減少

医薬



- 受託製造の医薬原末は売上増

営業品目

農薬

除草剤、殺虫剤、殺線虫剤、殺菌剤、植物成長調整剤、生物農薬、展着剤

医薬など

医薬原末、HVJ-Eベクター、CF3-ピリジン誘導体

売上高 **269** 億円 (+41 億円)

営業利益 **46** 億円 (+30 億円)

51.0%

セグメント別
売上構成比率

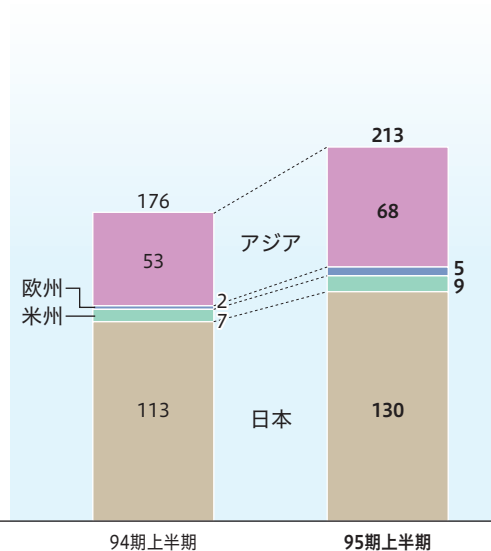
529 億円

46.3%

売上高 **244** 億円 (△22 億円)

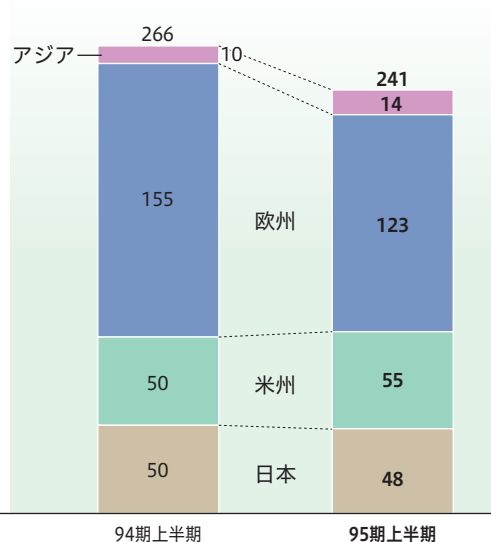
営業利益 **0.2** 億円 (△9 億円)

酸化チタンの
地域別売上高
(億円)



※ 億円未満を切り捨てて表示しています。

農薬の
地域別売上高
(億円)



※ 億円未満を切り捨てて表示しています。

TOPICS

富士チタン工業(株) 延岡市に新工場建設

当社子会社の富士チタン工業(株)は、宮崎県延岡市のクレアパーク延岡工業団地内に新工場を建設します。

新工場の敷地面積は3万8千㎡、延床面積は9千8百㎡で、本年11月に着工し、平成30年12月に完成、平成31年6月の操業開始を予定しています。

新工場では、電子機器に使う積層セラミックコンデンサの原料となるチタン酸バリウムを生産します。

同社は、平成12年に開設した日向工場で既にチタン酸バリウムを生産していますが、近年の電子機器需要拡大に対応するため、新工場を建設し生産能力増強を図ります。



延岡工場(仮称) 完成予想図

「イノベーションを支える素材展 in 大阪2017」に出展

本年7月4日(火)、5日(水)に、マイドーム大阪で開催された「イノベーションを支える素材展 in 大阪2017」に出展しました。

昨年に続き2回目の出展となりましたが、今回は「快適生活」「環境エネルギー」「ライフサイエンス」の3つのカテゴリーに区分し、それぞれのテーマに沿った当社無機化学製品(機能材料商品、超耐候性酸化チタンなど)や有機化学製品(有機中間体)を展示、紹介しました。雨や台風という天候ではありましたが、多くの方々にご来場頂き、当社の技術力をアピールすることができました。

併せて、出展に関わるプレゼンテーションも実施し、来場者の皆様からご好評をいただきました。



当社出展の様様

連結財務諸表

連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	94期 平成29年3月31日 現在	95期上半期 平成29年9月30日 現在
(資産の部)		
流動資産	103,997	109,102
現金及び預金	28,346	31,689
受取手形及び売掛金	25,407	29,947
たな卸資産	47,104	44,170
その他	3,138	3,294
固定資産	55,858	54,945
有形固定資産	39,183	38,154
無形固定資産	181	299
投資その他	16,493	16,492
① 資産合計	159,856	164,047

①総資産
棚卸資産が減少しましたが、現金及び預金や売掛金が増加したことなどにより前期末比4,191百万円増加して164,047百万円となりました。

③純資産
当期純利益2,446百万円を計上したことなどにより前期末比2,900百万円増加し、69,471百万円となりました。

※ 百万円未満を切り捨てて表示しています。

科目	94期 平成29年3月31日 現在	95期上半期 平成29年9月30日 現在
(負債の部)		
流動負債	47,310	53,846
支払手形及び買掛金	10,341	18,036
短期借入金等	27,139	24,932
その他	9,829	10,877
固定負債	45,974	40,729
社債及び長期借入金	27,780	22,198
退職給付に係る負債	12,602	12,665
その他	5,590	5,865
② 負債合計	93,284	94,575
(純資産の部)		
株主資本	68,526	70,969
資本金	43,420	43,420
資本剰余金	10,626	10,626
利益剰余金	15,188	17,634
自己株式	△ 709	△ 712
その他の包括利益累計額合計	△ 1,955	△ 1,497
③ 純資産合計	66,571	69,471
負債純資産合計	159,856	164,047

②負債
長期借入金が減少しましたが、買掛金が増加したことなどにより前期末比1,291百万円増加して94,575百万円となりました。

連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	94期上半期 平成28年4月1日～ 平成28年9月30日	95期上半期 平成29年4月1日～ 平成29年9月30日
④ 売上高	51,211	52,904
売上原価	38,818	37,688
売上総利益	12,392	15,215
販売費及び一般管理費	10,560	11,357
⑤ 営業利益	1,831	3,858
営業外収益	275	609
営業外費用	2,104	1,086
経常利益	3	3,380
特別利益	—	—
特別損失	405	418
税金等調整前四半期純利益又は純損失(△)	△ 401	2,962
法人税等	392	515
四半期純利益又は純損失(△)	△ 794	2,446
⑥ 親会社株主に帰属する四半期純利益又は純損失(△)	△ 794	2,446

④売上高
無機化学事業は、酸化チタンでは海外のタイトな需給環境が国内にも波及するなど、国内外ともに販売量が増加し、機能材料も電子部品向けや導電性材料など各種製品の販売が総じて好調に推移したことなどから、全体で前年同期を上回りました。有機化学事業は、農業の国内外で計画する新規剤上市と上市後の拡販に向けた販売基盤の構築に努め、国内売上はほぼ前年同期並みとなりました。海外売上は、近年販売強化に向けて取り組むアジア、北米では堅調な販売となりましたが、欧州では昨年好調であった殺虫剤や流通在庫の影響を受けた除草剤の販売が減少したことなどにより前年同期を下回りました。これらの結果、前年同期比1,692百万円の増収となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	94期上半期 平成28年4月1日～ 平成28年9月30日	95期上半期 平成29年4月1日～ 平成29年9月30日
⑦ 営業活動によるキャッシュ・フロー	9,702	12,706
⑧ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,748	△ 1,609
⑨ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,631	△ 7,808
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 423	54
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 101	3,343
現金及び現金同等物の期首残高	29,208	28,156
⑩ 現金及び現金同等物の期末残高	29,107	31,499

⑤営業利益
有機化学事業は農業の販売減少及び研究開発費などの費用増により減益となりましたが、無機化学事業において販売環境改善を背景に輸出価格改定など不採算販売の改善に努めたほか、各種コスト削減に向けた取り組みの成果も加わり増益となり、全体では前年同期比2,026百万円の増益となりました。

⑥親会社株主に帰属する当期純利益
営業利益段階での増益に加え、為替差損が為替差益へ転じたことなどにより前年同期比3,240百万円の増益となりました。

⑦営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前当期純利益2,962百万円の計上、減価償却費及びその他の償却費の計上やたな卸資産の減少、仕入債務の増加などが売上債権の増加などを上回り12,706百万円の収入(前年同期比3,004百万円の収入増)となりました。

⑧投資活動によるキャッシュ・フロー
固定資産の取得などにより、1,609百万円の支出(前年同期比1,139百万円の支出減)となりました。

⑨財務活動によるキャッシュ・フロー
借入金の返済を進めるなどにより、7,808百万円の支出(前年同期比1,177百万円の支出増)となりました。

⑩現金及び現金同等物の期末残高
現金及び現金同等物は前期末より2,392百万円増加し、31,499百万円となりました。

会社概要

— 石原産業グループ基本理念 —

- 「社会」、「生命」、「環境」に貢献する。
- 株主・顧客・取引先・地域社会・従業員を大切にすること。
- 遵法精神を重んじ、透明な経営を行う。

会社概要

(平成29年9月30日現在)

商 号 石原産業株式会社
英 文 商 号 ISHIHARA SANGYO KAISHA, LTD.
本 社 〒550-0002
大阪市西区江戸堀一丁目3番15号
TEL:06-6444-1451(総務部)
設 立 昭和24年6月1日
資 本 金 43,420,548,178円
従 業 員 数 1,051名
事 業 所 大阪本社・中央研究所・四日市工場・東京支店・中部支店・札幌営業所・仙台営業所・福岡営業所・アルゼンチン支店・シンガポール支店・北京駐在員事務所

役 員

(平成29年9月30日現在)

代表取締役社長 田中 健一
取 締 役 新 道義
取 締 役 本多 千元
取 締 役 松江 輝明
取 締 役 加藤 智洋
取 締 役 米村 紀幸(社外取締役)
取 締 役 勝又 宏(社外取締役)
常 勤 監 査 役 加藤 泰三
常 勤 監 査 役 秋國 仁孝(社外監査役)
監 査 役 播磨 政明(社外監査役)

主なグループ会社

(平成29年9月30日現在)

連結子会社(海外)

- ベルギー ●ISK BIOSCIENCES EUROPE N.V.
欧州農業事業統括及び農業の製剤・販売
- 台 湾 ●台湾石原産業股份有限公司
無機製品の販売
- ア メ リ カ ●ISK AMERICAS INCORPORATED (オハイオ)
米国所在子会社の統括管理
- ISK BIOSCIENCES CORPORATION (オハイオ)
米州における農業の登録及び市場開発
- ISK MAGNETICS, INC. (オハイオ)
資産管理
- ISK BIOCIDES, INC. (テネシー)
木材防腐剤の製造及び販売
- ISHIHARA CORPORATION (U.S.A) (カリフォルニア)
主として無機製品の販売

連結子会社(国内)

- 石原バイオサイエンス株式会社
農業の販売
- 石原テクノ株式会社
商社業(無機、有機及びその他)
- 富士チタン工業株式会社
酸化チタン、電子材料等の製造及び販売
- 石原エンジニアリングパートナーズ株式会社
建設業
- 四日市エネルギーサービス株式会社
産業用電力及び蒸気の生産、供給、販売

ホームページのご案内

ホームページでは、IR情報等、株主のみなさまに有益な情報を多数発信しておりますのでご覧ください。

トップページ



IR情報



<http://www.iskweb.co.jp> 石原産業

検索

株式情報

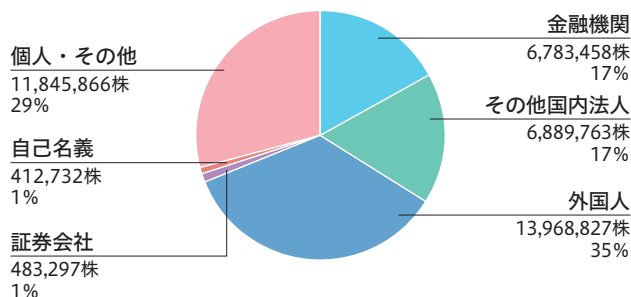
株式の状況

(平成29年9月30日現在)

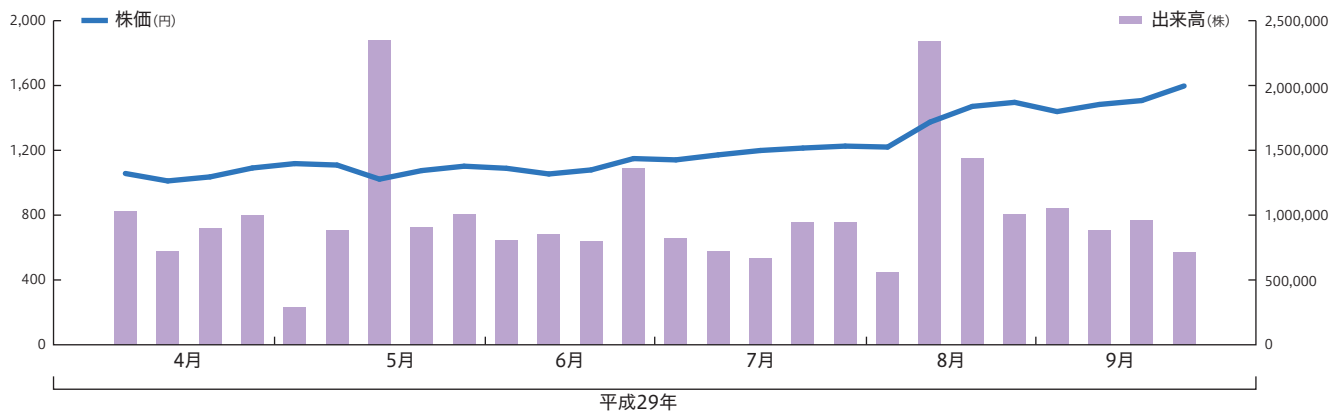
発行可能株式総数 1億株
発行済株式の総数 40,383,943株
株主数 29,436名

株式所有者別分布状況

(平成29年9月30日現在)



株価と出来高の推移



大株主

(平成29年9月30日現在)

株主名	株式数(千株)
三井物産株式会社	2,019
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES PARIS/JASDEC/FBB SEC/BELCHIM MANAGEMENT	1,800
東亜合成株式会社	1,722
ユーピーエルジャパン株式会社	1,170
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,162
GOVERNMENT OF NORWAY	1,106
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,090
ISK交友会	844
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	815
石原産業従業員持株会	788

(注)株式数は株主名簿上の数で千株未満を切り捨てて記載しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会・期末配当:毎年3月31日
中間配当:毎年9月30日
単元株式数 100株
公告の方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
当社ホームページアドレス
<http://www.iskweb.co.jp>
株主名簿管理人及び特別口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

単元未満株式(100株未満の株式)について

当社の株式は1単元が100株となっています。株主様がご所有の単元未満株式(100株未満)につきましては、市場で売買できない、株主総会で議決権を行使できないなどの制約があります。もし、そのような単元未満株式をお持ちでしたら、買増制度、買取制度をご利用ください。